

道路をつくる際には、環境との調和を図るため、渋滞の緩和や周辺の自然環境、景観を考慮し、様々な工夫をこらしながら計画や整備を進めています。

また、運転者だけでなく、高齢者や障害者を含め、誰もが快適で安全に使いやすい道となるよう、歩道の段差解消などのユニバーサルデザインを積極的に取り入れています。

環境へ配慮した取組みの例として、以下のようなものがあります。



①都市部などの渋滞対策

渋滞は、自動車の二酸化炭素や有害物質などの排出を増やし、環境に対し多くの負荷を与えています。

県では、渋滞の緩和を図るため、国道455号北山バイパス(盛岡市)の整備などを進めています。



国道455号 渋滞状況 (盛岡市北山地区)

②自然環境・沿道環境への配慮

道路をつくる際には、自然や生態への負担をできるだけ軽くすることが重要です。

県では、リサイクルや自然エネルギーを有効活用するとともに、道路整備の後も植物や動物が生息できる環境の確保に努めています。



国道106号 動物横断路 (盛岡市築川地区)

③景観との調和

県では、昔ながらの街並みや自然を活かし、歴史的景観・自然景観に配慮した道づくりを進めています。

他にも、景観を阻害する電線等を地中に埋め直したり、ガードレールの色を景観になじむ色を使うなどの対策を進めています。



一般県道 折壁大原線 景観に配慮したガードレール (一関市千厩町)

④誰もが歩きやすい道づくり

歩道の段差解消や視覚障害者誘導用ブロックを取り入れ、ユニバーサルデザインやバリアフリー化を推進しています。

また、冬期は、歩道の凍結防止を図るため消融雪施設などを整備し、歩きやすい道路の確保に努めています。



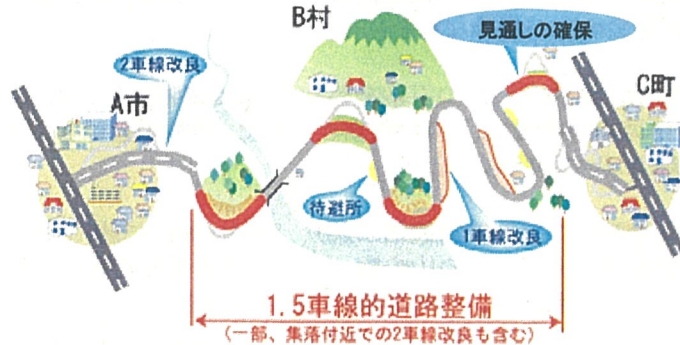
国道284号 段差解消 (一関市大町地区)

☆トピック☆ ～ 1.5車線の道路整備とは? ～

1. 5車線の道路整備とは、比較的交通量の少ない地域において、全線2車線にこだわらずに、様々な工夫を取り入れ整備を行うものです。

具体的には、車のすれ違いができる程度に道幅を広げたり、急カーブを改良し、カーブを緩やかにするなどの整備を行います。

2車線改良に比べ、コストの縮減、早期整備が可能だけでなく、**環境への負荷を軽く**することができます。



[改良前] 主)江刺室根線 大中斉地区



[改良イメージ] 平成18年度完成予定

☆道路百科は、今回の第5回で一区切りとさせていただきます。ご愛読いただきありがとうございました。